



特別寄稿

民鉄協の6年間を ふりかえって

日本民営鉄道協会
前理事長 三澤 明

「みんてつ」の読者の皆様、こんにちは。
私は去る5月まで日本民営鉄道協会の理事長を務めていました三澤と申します。今回は私が民鉄協におりました6年間のふりかえりつつ、これを機会に民鉄協の活動の一端をご紹介したいと思います。

一言で申しますと、この6年間は激動の時代であり、また私自身民営鉄道に心血を注いだ6年間でした。さまざまなことがあり、わずかな誌面でも言い尽くせるものではありませんが、一番大き

な思いは、政府系金融機関の改革時に今後の民鉄の健全な発展のためにぜひとも必要な政策投資銀行の鉄道融資を維持できたことでしょう。3年前に地方鉄道の上下分離の制度が実現できたことも忘れられません。連立立交差事業や他の予算制度、税制をめぐってもいろいろな動きがありました。

一方で民鉄協が実施する協会プロジェクトの面では、私の前任者の時からはじめた地方民鉄支援事業に加えて、鉄道と街づくりの連携に関するモデルプロジェクト、こども110番の駅、地方民鉄旅ガイド、鉄道体験学習デジタル教材など多くのプロジェクトが花開きました。

広報活動は、この「みんてつ」を含め各方面からかなりのご評価をいただくようになってきていますが、特筆すべきことは、4年前にはじめた小学生新聞コンクールの応募作品数が当初の5倍の約5000作品になったこと、ホームページのアクセス数が2回のリニューアルを経て私が民鉄協に来た時に比べると10倍、百数十万ページビューになったということだと思えます。

以上とりとめもなく民鉄協の思い出と仕事をご紹介申し上げましたが、読者の皆様には、民営鉄道への変わりぬご理解、ご支援と、「みんてつ」の引き続きのご愛読をお願い申し上げます。

